

[基本方向 2] 森林の適正な整備・保全による「森林との共生」
～森林の多面的機能の維持・増進～

基本的な施策 2-1 森林の適正な整備

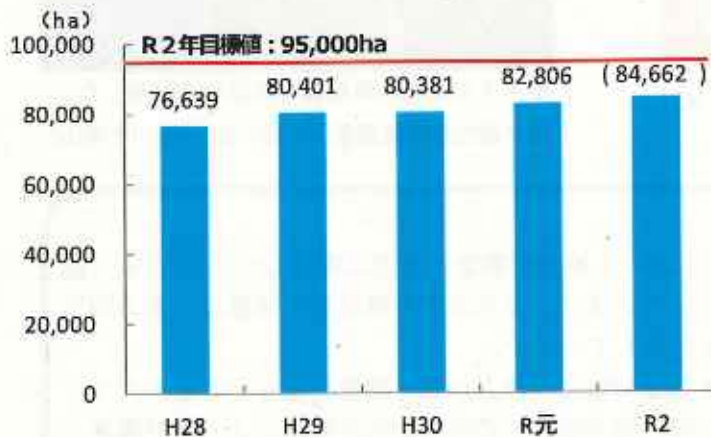
指 標	実 績 () は速報値					目 標
	H28	H29	H30	R 元	R2	R2
森林の多面的機能を持続的に発揮させる森林整備面積 (ha)	11,429	9,971	10,080	10,144	R3.9 公表	10,000
森林経営計画の認定面積 (累計) (ha)	76,639	80,401	80,381	82,806	(84,662)	95,000
効率的な森林整備を実現する路網の延長 (累計) (再掲) (km)	3,743	4,110	4,397	4,680	R3.9 公表	4,740

森林経営計画の認定面積

(84,662) ha [目標 95,000ha]

※目標の考え方

主伐による木材生産量 20 万 m³すべてを森林経営計画認定森林から生産することを目指す。



航空レーザ計測成果を活用した施業集約化の検討 (島田市身成)



作業道を活用した主伐 (西伊豆町大沢入)

《評価》

「森林の多面的機能を持続的に発揮させる森林整備面積」は、森の力再生事業や造林事業などの補助事業により森林整備を促進した結果、目標を達成する見込みです。また、「効率的な森林整備を実現する路網の延長」も、主伐型路網などの整備の促進により目標を達成する見込みです。

一方で、「森林経営計画の認定面積」は、林業経営体が事業地確保や施業集約化に労力を要することなどから、伸び悩んでおり、森林経営計画の作成支援をしていく必要があります。

《改善》

航空レーザ計測・解析による生産適地の効率的な把握や森林経営管理制度の促進により、事業地の確保や施業の集約化を支援し、森林経営計画の作成を促進します。木材運搬を効率化する主伐型路網の整備を引き続き支援します。

基本的な施策 2-2 森林の適正な保全

指標	実績()は速報値					目標
	H28	H29	H30	R元	R2	R2
山地災害危険地区の整備地区数(累計) (地区)	4,070	4,077	4,080	4,092	4,103	4,090
森の力再生面積(累計)(ha)	13,413	14,453	15,488	16,652	17,987	17,920
公益的機能を持続的に発揮している保安林の割合(%)	81	83	83	83	R3.10 公表	85
ふじのくに森の防潮堤づくり(中東遠地域)の整備延長(累計)(m)	1,195	3,743	6,236	8,729	(9,897)	10,400
伊豆・富士地域におけるニホンジカの推定生息頭数(頭)	55,700	51,100	52,900	50,700	43,900	18,800

伊豆・富士地域におけるニホンジカの推定生息頭数

43,900 頭 [目標 18,800 頭]

※目標の考え方

第二次特定鳥獣管理計画の伊豆及び富士地域におけるニホンジカの推定生息頭数を目標値とする。



森林生態系や農林業に被害を及ぼすニホンジカ

《評価》

「山地災害危険地区の整備地区数」と「森の力再生面積(累計)」は、計画的に事業を執行したことで目標を達成しています。

「ふじのくに森の防潮堤づくり(中東遠地域)の整備延長」は、各市が実施している防潮堤の高上げに合わせた防災林の再整備と機能強化を、着実に推進しています。

「伊豆・富士地域におけるニホンジカの推定生息頭数」は、計画に基づいた捕獲により、推定生息頭数の減少傾向がみられていますが、目標の達成には、より一層効果的な捕獲を進める必要があります。

《改善》

森の力再生事業については、近年、集中豪雨の頻発による山地災害リスクが高まっており、残りの荒廃森林の整備を速やかに完了させることが求められていることから、令和3年度以降も課税期間を5年延長し、事業を継続します。ニホンジカ対策として、県が行う管理捕獲等では、頭数削減効果の高いメスジカの捕獲を重点的に実施し、人工餌場に誘引する技術等の導入などにより捕獲効率を高めるとともに、市町や林野庁が実施する被害防止目的の捕獲と連携して進めます。治山事業は、山地災害の防止だけでなく、流域治水の関連施策の一つとして国や市町などの関係機関と連携した事業の推進を図ります。ふじのくに森の防潮堤づくりは、防潮堤の高上げを実施している各市と緊密に情報交換を行い、一層の事業の推進を図ります。また、県民、企業、NPO等と連携し、富士山や南アルプスなどの自然環境の保全の推進を図ります。

基本的な施策 2-3 魅力と強みを活かした山村づくり

指 標	実 績					目 標
	H28	H29	H30	R元	R2	R2
しいたけ生産量 (トン)	2,271	2,148	2,154	2,163	2,358	2,345
効率的な森林整備を実現する路網の延長 (累計) (再掲) (km)	3,743	4,110	4,397	4,680	R3.9 公表	4,740

しいたけ生産量

2,358 トン [目標 2,345 トン]

※目標の考え方

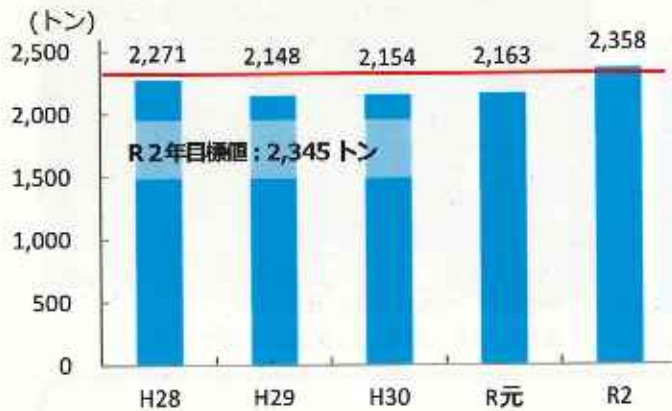
乾しいたけについては東日本大震災以前の水準への回復。生しいたけは現状維持。



しずおか農林水産物
認証マーク

しずおか農林水産物認証を
取得したしいたけ

※しずおか農林水産物認証
取得件数 10 件



改良、舗装で林道の安全性を強化 (富士市中之郷)

《評価》

「しいたけ生産量」は、生しいたけの生産量が増加したことから目標に達しました。一方、乾しいたけの生産量は、722トン(生換算)となり、前年(737トン)とほぼ横ばいで推移しており、依然として東日本大震災前の生産量(872トン)までは回復していません。

「効率的な森林整備を実現する路網の延長」は、目標を達成する見込みです。

《改善》

しいたけ生産者に対して原木などの生産資材の購入を支援し、生産基盤を強化するとともに、しずおか農林水産物認証をはじめとした GAP*の取得拡大に向けた制度の周知、海外輸出の促進による販路拡大を図ります。

山村地域の生産や生活の基盤であり、都市と山村を結ぶアクセス路となる林道などの整備を着実に進めます。

*GAP (適正農業規範)

農業生産活動の持続性 (食品安全、環境保全、労働安全等) を確保するため、点検項目を定め、生産工程の管理や改善を行う取組

[基本方向3]

森に親しみ、協働で進める「森林との共生」 ～県民総参加による持続的で魅力的な森づくり活動の推進～

基本的な施策3 県民の理解と参加の促進

指標	実績					目標
	H28	H29	H30	R元	R2	R2
森づくり県民大作戦参加者数(人)	28,343	27,968	28,271	28,149	11,898	28,000
しずおか未来の森サポーター企業数(累計)(社)	119	124	126	130	134	133
自然ふれあい施設における自然体験プログラム実施回数(回)	159	149	190	216	141	160
環境学習指導員等の養成人数(人)	17	17	14	23	28	17
森林情報共有システムにより発信した森林情報のアクセス数(件)	71,349	78,323	64,354	72,328	79,322	80,000

森づくり県民大作戦参加者数

11,898人 [目標 28,000人]



※目標の考え方

平成27～29年度の平均値として設定。



感染症対策を実践した自然体験プログラム
(浜松市浜北区尾野)

《評価》

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの森づくりイベントが中止や規模縮小となり、「森づくり県民大作戦参加者数」及び「自然ふれあい施設の自然体験プログラム実施回数」は減少しました。

「しずおか未来の森サポーター企業数」は、社会貢献活動やSDGs等に関心の高い企業に対して参加を働きかけた結果、134社となり目標を達成しました。

環境学習指導員等の養成人数は、開催日程を工夫した結果、増加しました。

森林経営管理制度に基づいて市町が実施する、経営管理の計画作りや所有者の意向調査について支援した結果、県内26市町で取組が始まりました。

《改善》

森づくり活動においては、大規模な行事の自粛など新型コロナウイルス感染症の影響は続くと思込まれるため、感染症対策の実践を普及するとともに、多様な層に向けた森林空間活用の提案や学びの提供など、新たな視点による県民参加の森づくりを推進します。森林経営管理制度については、経営管理が行われていない森林の整備が着実に実施されるよう、引き続き市町を支援します。